

なかま

つばくrame 希望携え 急行す
フリースを 着込んで立夏 うす緑

行事予定表

5月11日 授業参観、懇談会 (小1,2、P小、小5,6)
5月18日 総務オフィス会議 高等部等講演会
6月1日 運動会係打合せ
6月8日 燦々プロジェクト (AP 試験を紹介)
6月15日 JASL スピーチコンテスト 卒業式
6月22日 漢字検定 理事会

JASL おにぎり握りました!

去る5月4日、JASLの文化紹介、体験授業の一環として、生徒たち全員がおにぎりについて学び、実際に握ってみる授業が、全クラス合同で行われました。最初にJASL4の生徒たちが、お米のとぎ方と炊き方について調べた成果を、パワーポイントを使って一人ずつ発表しました。そのあと、JASL4担任の比嘉美佐子先生が、実際におにぎりを握るデモンストレーションを行い、四つのテーブルに分かれて、梅ぼし、おかか、ツナマヨなどの具を入れたおにぎりを、全員が握りました。食べたことはあっても作ったことはない生徒がほとんどで、みな真剣なまなざしで、先生方が用意した32合ものご飯を次々と握っていました。日本文化への理解を深めることができた楽しい体験授業となりました。お手伝いしてくださった保護者の皆様、ありがとうございました。



JASL おにぎり授業



親の悩みを共有した学級懇談会

保護者懇談会では、お母(父)さんの大変さが共有されました。⇒

プリンストン日本語学校新聞



平成26年度 No.06号

平成26年 5月11日

文責 長尾重範 nagao@pcjls.org

「宮沢賢治」ってどんな人? (11)

芝崎雅行

賢治の8つ年下の弟の宮沢清六の、非常に貴重な賢治の思い出話が、『兄のトランク』(ちくま文庫)なんだ。レコード集めのことも、原稿用紙月3000枚の話もここに何度か出てくる。

この本を読むと、宮沢賢治がどんな人だったか、いろいろなヒントを貰える。賢治が、子供の頃よく映画館に通ったこと。なかでもチャールズ・チャップリンが大好きだったこと。『どんぐりと山猫』に出てくる、可笑しい「馬車別当」なんか、チャップリンから出て来たのかもしれない。その馬車別当に出くわした「一郎」くんは、笑いを堪えるのが大変だったわけだけど、それが少年賢治だったんだろう。コナン・ドイル(シャーロック・ホームズ)やH・G・ウェルズ(タイムマシン)を弟が読んだことも記されていて、ということは兄もそれ以上に読んだのだから、ちょっとひねった『注文の多い料理店』や、SFと言っても良い『グスコブドリの伝記』の発想の種が、ここにあったのかもしれないよね。その後、映画を卒業してしまった賢治は、山登りや座禅の方に凝りだすとも書いてある。賢治は、父親に反抗して日蓮宗徒だったから、座禅の経験はないと思っていたら、そうでもなかった。脳内現象発露のトレーニングはそこでされていたのかも。

この本によると、賢治が生まれた年(1896)と死亡した年(1933)に大津波があったという。後者は23メートルの大波で死傷者3000人を出したということで、「天候や気温や災害を憂慮し続けた彼の生涯と、何等かの暗合を感ずる」と清六は書いている。また、37歳の「死の十日前に教え子に出した手紙には『私の惨めな失敗は、まだまだ慢心という気分が残っていたため』と深く反省して書いている」とも。『貝の火』のホモイや、『ペンネンネンネン・ネネムの伝記』のネネムの、慢心への断罪の気持ちを、最後まで持ち続けていたことを思い知らされるんだよね。

(副総務長)

⇒親子して悪戦苦闘しているのも、輝かしい将来があるからですが、その最中であっては、我が家だけじゃない、他の家庭も苦しみがらがんばっているのだと思えることは、とても心が落ち着くことではあります。ずっとじゃないんだから、今を悪戦苦闘していきましょう。